

教科（科目）	芸術（音楽Ⅰ）	単位数	2単位	学年（コース）	1学年（必修選択）
使用教科書	教育芸術社『MOUSAⅠ』				
副教材等	教育芸術社『音楽の鑑賞資料と基礎学習』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	① 多様な考えを尊重し、協働的な取組をとおして最適解を求める資質・能力を育成します。 ② 礼節を重んじ、感謝の気持ちを持って社会に貢献しようとする資質・能力を育成します。 ③ 知的好奇心と創造力に富み、生涯にわたり主体的に学び続ける資質・能力を育成します。
カリキュラム・ポリシー	① 全日制普通科の高等学校として、生徒一人ひとりの多様な進路に対応するために、知・徳・体のバランスのとれた総合的な力をつける教育活動を展開します。 ② 協働的な学びを進めるために、ICTを効果的に活用したグループ学習や課題探究活動、プレゼンテーション活動などを、「総合的な探究の時間」を始めとした各教科の学習に取り入れます。 ③ 地元の行政機関や大学、企業等と連携して、地域を知り、地域に貢献し、さらに全国的、世界的な視野をもてるような活動を教科等横断的に行います。 ④ 生徒の主体的な活動を支援し、多様な人や考え方と接する機会をつくるために、生徒会活動や学校行事等を充実させます。

2 学習目標

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成する。

- 1 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけるようにする。
- 2 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。
- 3 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

3 指導の重点

学習目標を達成させるため、

- ①歌唱や器楽などによる表現活動および鑑賞の幅広い学習を通して音楽への興味、関心を高めます。
- ②自己のイメージを表現するための技能を身につけ、それを生かして創造的な音楽表現を目指します。
- ③鑑賞を通して音楽文化の理解を深め、音楽を形作っている要素や要素同士の関連を学びます。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。	主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・振り返りテストの分析 ・ノートやワークシート、プリント等、提出物などの内容の確認 ・実技試験 などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・ノートやワークシート、プリント等、提出物などの内容の確認 ・実技試験 などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業の取り組みや発言、発表の内容の観察 ・ノートやワークシート、プリント等、提出物などの内容の確認 などから評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 で評価します。 内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	オリエンテーション	表現 1		・目標と学習内容を理解する。 ・自己紹介シート	6	・授業への取り組み
	歌唱 楽典	表現 5	ポピュラー ソング 校歌	・響きのある歌い方を目指す。 ・校歌の作詞・作曲者や歌詞の内容などを知る。 ・曲想と音楽の構造や歌詞の関わりについて理解する。 ・音名を理解する。		・ワークシート ・ノート学習・提出 ・歌唱テスト ・授業での取り組み
5	楽典	表現 3	音符・休符の読み方・書き方	・音符、休符の正しい読み方・書き方を身につけ、表現に生かすようにする。	1 2	・ノート学習・提出 ・授業での取り組み ・筆記テスト
6	器楽	表現 8	ギターでメロディを弾こう	・前回までに学んだ楽典の内容を復習する。 ・ギターの正しい奏法を身につけ、TAB 譜を見ながら曲を演奏する。		・ワークシート ・ノート学習・提出 ・実技テスト ・授業での取り組み
	楽典	表現 1	筆記テスト	・今まで学んだ楽典の内容を確認する。		・筆記テスト
7	歌唱	表現 5	日本・ドイツ歌曲	・曲の性格をとらえ、それぞれにふさわしい表現になるよう工夫する。	5	・振り返りシート ・ワークシート ・歌唱テスト ・授業での取り組み
	鑑賞	鑑賞 2	お気に入り曲の紹介	・「私のお気に入りの1曲」を調べ、紹介リポートを作成する。	2	・ワークシート ・授業での取り組み
8	鑑賞	鑑賞 2	日本の伝統音楽の鑑賞	・日本の伝統音楽について学び、楽曲を鑑賞する。 ・三味線の歴史や種類について	2	・ワークシート ・授業での取り組み

				て学ぶ。		
9	器楽	表現 10	三味線	・調絃や勘所の押さえ方など、三味線の正しい奏法を身につけ、曲を演奏する。	10	・ワークシート ・実技テスト ・授業での取り組み
10	楽典	表現 4	コードについて	・コードのしくみを理解し、コード進行をもとに簡単なメロディを創作する。	16	・ノート学習・提出 ・授業での取り組み
	器楽	表現 4	キーボードで伴奏を弾こう	・前回学んだ楽典の内容を生かし、楽譜を見ながらコード伴奏を完成させる。 ・メロディに合わせ演奏する。 ・楽譜を見ながらコード伴奏を弾く。		・振り返りシート ・実技テスト ・授業での取り組み
11		表現 7	ギターで伴奏を弾こう	・メロディも覚え、口ずさみながら曲に合った弾き方を工夫し表現する。		・ワークシート ・実技テスト ・授業での取り組み
	楽典	表現 1	筆記テスト	・コードの仕組みについて学んだ内容を確認する。		・筆記テスト
12	鑑賞	鑑賞 4	音楽の要素	・音楽の要素を理解し、楽曲を鑑賞する。	4	・ノート学習 ・授業での取り組み
1	器楽	表現 9	器楽アンサンブル	・アンサンブルで使用する楽器の理解を深め、意図を持って音楽表現する技術を習得する。 ・協働的に表現活動をしている。	14	・ワークシート ・演奏発表 ・授業での取り組み
2						
3	楽典	表現 4	リズムアンサンブル	・今まで学んだ各店の内容を復習し、リズムの創作をする。 ・グループでリズムアンサンブル演奏を行う。		・ワークシート ・演奏発表 ・授業での取り組み

計 70 時間（50 分授業）

※領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	A「表現」 62 時間	B「鑑賞」 8 時間	
-----------------	----------------	---------------	--

7 課題・提出物等

- ・歌唱や器楽の実技テストを学期ごとに実施しています。
- ・歌唱や鑑賞で取り上げる作品についてはノートやワークシートに記入し、学習後に提出してもらいます。

8 担当者からの一言

音楽活動を通しての自己表現を目標とし、日常生活の中でも音楽を楽しめるよう進めていきます。「わかる」「できる」を積み重ね、音楽を「好き」から「特別な好き」に変えていけるよう、積極的に学んでください。

担当者（ 大矢 恵美子 ）

教科(科目)	芸術（美術Ⅰ）	単位数	2 単位	学年(コース)	1 学年
使用教科書	日本文教出版『高校生の美術Ⅰ』				
副教材等	なし				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～このような資質・能力を育成します～ ① 多様な考えを尊重し、協働的な取組をとって最適解を求める資質・能力を育成します。 ② 礼節を重んじ、感謝の気持ちをもって社会に貢献しようとする資質・能力を育成します。 ③ 知的好奇心と創造力に富み、生涯にわたり主体的に学び続ける資質・能力を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～このような教育活動を行います～ ① 全日制普通科の高等学校として、生徒一人ひとりの多様な進路に対応するために、知・徳・体のバランスのとれた総合的な力をつける教育活動を展開します。 ② 協働的な学びを進めるために、ICTを効果的に活用したグループ学習や課題探究活動、プレゼンテーション活動などを、「総合的な探究の時間」を始めとした各教科の学習に取り入れます。 ③ 地元の行政機関や大学、企業等と連携して、地域を知り、地域に貢献し、さらに全国的、世界的な視野をもてるような活動を教科等横断的に行います。 ④ 生徒の主体的な活動を支援し、多様な人や考え方と接する機会をつくるために、生徒会活動や学校行事等を充実させます。

2 学習目標

美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。
- (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

3 指導の重点

- (1) 知識及び技能の習得のために
 - ・造形的な視点を豊かにし、実感を伴う理解を深め、意図に応じた表現方法を習得することを目指します。
 - ・材料や用具の活かし方を身に付け、正しく安全に使用できるようになることを目指します。
- (2) 思考力・判断力・表現力等の育成のために
 - ・感じ取ったことや考えたことを基に主題を生み出し、目的や条件などを基に、機能性と美しさなどの調和を考えて独創的な構想を練ることを目指します。
 - ・自分の作品についてや他者の作品などから感じたことを、言葉でも説明できるようになることを目指します。
- (3) 学びに向かう力、人間性等を育成するために
 - ・美術や美術文化に親しみ、より良い作品を制作するために積極的に学習活動に取り組む態度を育てます。
 - ・自他の作品を尊重し、用具などの管理にまで気を配れるようになることを目指します。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・美術の基本的な知識や技法を理解し、意図に応じた表現に活かしている。 ・素材や用具の特性を理解し、正しく安全に使用して、創造活動に活かしている。	・感じたことや考えたことから主題を生み出し、独創的な構想を練っている。 ・目的や条件を考え、機能性と美しさなどの調和のとれた表現を工夫している。 ・作品についての説明や感じたことを言葉で的確に表現している。	・主体的に創作活動に取り組み、より良い作品を制作するために積極的に行動しようとしている。 ・丁寧に作品を制作するとともに、自他の作品を尊重し、用具などの管理にも気配りをしようとしている。

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・完成作品、アイデアスケッチ、ワークシートなどの提出物の内容の確認 ・用具の取り扱い方の観察 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・完成作品、アイデアスケッチ、ワークシートなどの提出物の内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・創作活動への取り組みの観察 ・完成作品、アイデアスケッチ、ワークシートなどの提出物の内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 ・後片付けや用具、作品の管理の確認 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 で評価します。 内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4 5 6 7	オリエンテーション	表現 1	スケッチ	・授業を受ける際の心構え、注意事項の説明。 ・自己紹介シート、手のスケッチ	1	・完成作品 ・授業への取り組み
	工芸（皮革）	表現 1 1	コースターストラップ	・革の特性を理解し、用具を効果的に使用して、指定の模様等を組み合わせさせてコースターを制作する。 ・コースター制作の経験を活かして革のストラップをデザインする。	1 1	・アイデアスケッチ ・完成作品 ・振り返りシート ・授業での取組
	デザイン・彫刻	表現 9	消しゴムはんこ	・素材の特性を理解し、用具を正しく安全に使用してはんこを制作し、エコバッグとクラスごとのカレンダーを作る。	9	・アイデアスケッチ ・完成作品 ・振り返りシート ・授業での取組
	鑑賞	鑑賞 2		・自他の作品を鑑賞し、感じたことや気付いたことをワークシートに記入し、意見交換する。	2	・ワークシート ・授業での取組

8 9 10 11 12	絵画	表現 1 7	風景画 (アクリル)	・遠近法の練習をしながらアクリル絵具の特性を理解し、効果的に表現できるようになる。 ・好きな歌詞からイメージした想像の風景を、遠近感や立体感を意識して描く。	1 7	・アイデアスケッチ ・完成作品 ・歌詞 ・振り返りシート ・授業での取組
	工芸 (木工)	表現 1 4	ペーパーナイフ	・木材の特性を理解し、用具を正しく安全に使用して、実用性とデザイン性をあわせ持つペーパーナイフを制作する。	1 4	・アイデアスケッチ ・完成作品 ・振り返りシート ・授業での取組
1 2 3	立体造形	表現 1 2	紙粘土	・紙粘土の特性を理解し、用具等を正しく使用して、実在しない動物を新しく考え出して立体で表現する。 ・制作した動物について説明文を作り、自分の作品を言葉でも表現する。	1 2	・アイデアスケッチ ・完成作品 ・説明文 ・授業での取組
	鑑賞	鑑賞 4		・教科書掲載の作品についてワークシートの設問に答えながら考察を深める。	4	・ワークシート ・授業での取組

計 70 時間 (50 分授業)

※ 領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	A 表現 6 4時間	B 鑑賞 6 時間	
-----------------	---------------	--------------	--

※ 増単している場合は、増単した割合に応じた授業時数を確保すること。

7 課題・提出物等

- ・アイデアスケッチ
- ・完成作品
- ・振り返りシート
- ・ワークシート

*課題ごとに提出するもの、提出の仕方が違うので、その都度確認をしてください。

8 担当者からの一言

授業を通して様々な素材や画材に触れ、美術の知識や経験を得るとともに、ものを作る楽しさを味わってもらいたいと思います。また制作活動を通して、期限内に条件を満たした作品を完成させるために時間を意識して制作計画を考えることや、分からないことやうまくいかないことを放置せず、より良い作品を作るために積極的に行動することを学んでください。

*授業の進み具合等で課題の内容や順番を変更することがあります。

(担当：三上 曜)

教科(科目)	芸術（書道Ⅰ）	単位数	2単位	学年	1学年
使用教科書	教育図書 『書Ⅰ』				
副教材等	教育図書 『ペン習字の基礎』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	このような資質・能力を育成します ① 多様な考えを尊重し、協働的な取組をとおして最適解を求める資質・能力を育成します。 ② 礼節を重んじ、感謝の気持ちを持って社会に貢献しようとする資質・能力を育成します。 ③ 知的好奇心と創造力に富み、生涯にわたり主体的に学び続ける資質・能力を育成します。
カリキュラム・ポリシー	このような教育活動を行います ① 全日制普通科の高等学校として、生徒一人ひとりの多様な進路に対応するために、知・徳・体のバランスのとれた総合的な力をつける教育活動を展開します。 ② 共働的な学びを進めるために、ICTを効果的に活用したグループ活動や課題研究活動、プレゼンテーション活動などを、「総合的な探究の時間」を始めとした各教科の学習に取り入れます。 ③ 地元の行政機関や大学、企業等と連携して、地域を知り、地域に貢献し、さらに全国的、世界的な視野をもてるような活動を教科等横断的に行います。 ④ 生徒の主体的な活動を支援し、多様な人や考え方と接する機会をつくるために、生徒会活動や学校行事等を充実させます。

2 学習目標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。 (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりすることができるようにする。 (3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。
--

3 指導の重点

・漢字仮名交じりの書では、基本的な用具・用材の扱いを理解し、自らの構想に基づいて漢字と仮名の調和した表現の工夫をする。 ・漢字の書では、いろいろの書体、書風を学習し、意図に基づいた表現について構想し工夫する。 ・仮名の書では、その成立を理解し、その美しさと技法を学習する。
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 書の実現の方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解している。 - 書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、表している。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりしている。	主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。

5 評価方法

評価は次の観点から行います。			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 - 作品 - 表現の意図・構想・表現の工夫の取り組みの記録 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 - 作品 - 表現の意図・構想・表現の工夫の取り組みの確認 - 考えたことや意見交換の記録 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 - 授業中の発言とその記録 - 作品制作への取り組みの状況 - 学習活動への参加状況（出席状況・学習態度等） などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A:十分満足できる」、「B:おおむね満足できる」、「C:努力を要する」で評価します。 内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	書へのいざない	1 「A 漢字仮名交じりの書」 1 「B 漢字の書」 1 「C 仮名の書」	書道の基本	- 書の歴史 - 文房四宝への理解	3	ワークシート 授業の取り組み
	楷書	2 「B 漢字の書」	牛橛造像記	- 楷書の古典の臨書する意義について理解する。 - 楷書の古典を鑑賞し、その美について理解する。 - 楷書の古典の用筆、運筆、字形の取り方などについて学び、表現の特徴を手掛かりとして臨書する。	2	作品 授業の取り組み

5	楷書	3 「B 漢字の書」 2 「B 漢字の書」 2 「B 漢字の書」	鄭義下碑 顔氏家廟碑 雁塔聖教序	・楷書の古典の臨書する意義について理解する。 ・楷書の古典を鑑賞し、その美について理解する。 ・楷書の古典の用筆、運筆、字形の取り方などについて学び、表現の特徴を手掛かりとして臨書する。	7	作品 授業の取り組み
6	創作	7 「B 漢字の書」	漢字一字書	・漢字の書で学んだ古典の特徴や技法を生かして創作する。 ・作品を鑑賞し、相互批評をする。	7	作品 授業の取り組み
7	篆刻	6 「B 漢字の書」	8 分印	・篆書の成立、落款の意味や種類について理解する。 ・篆刻の用具・用材や落款印の手順について理解する。 ・篆刻の作品を鑑賞する。	6	作品 授業の取り組み
8	篆刻	2 「B 漢字の書」	8 分印	・篆刻の用具・用材や落款印の手順について理解する。 ・篆刻の作品を鑑賞する。	2	作品 授業の取り組み
9	行書	6 「B 漢字の書」	集王聖教序 蘭亭序	・行書の古典を臨書する意義について理解する。 ・行書の古典を鑑賞しその美について理解する。 ・行書の古典の用筆、運筆、字形の取り方などについて学び、表現の特徴を手掛かりとして臨書する。	6	作品 授業の取り組み

10	行書	8 「B 漢字の書」	争位稿	・行書の古典を臨書する意義について理解する。 ・行書の古典を鑑賞し、その美について理解する。 ・行書の古典の用筆、運筆、字形の取り方などについて学び、表現の特徴を手掛かりとして臨書する。	8	作品 授業の取り組み
11	表現の工夫	8 「A 漢字仮名交じりの書」	線の研究 リズム 墨色 紙面構成	・書き方の工夫によってさまざまな表現ができることを理解し、どのような表現をしたいかという意図に合うかどうか考える。 ・用具・用材の使い方や種類を変えたりすることで表現に変化をつけることを理解する。 ・文字の大きさや配列など、紙面の構成を工夫することで表現に変化をつけられることを理解する。	8	作品 授業の取り組み
12	創作	6 「A 漢字仮名交じりの書」	詩など	・表現の工夫で学んだことを生かして意図に基づいて創作する。 ・作品を鑑賞し、相互批評をする。	6	作品 授業の取り組み
1	仮名	6 「C 仮名の書」	仮名の成立 平仮名 変体仮名 連綿	・仮名の成立と変遷について理解する。 ・仮名の基本的な線について理解し、練習する。 ・連綿について理解し、練習する。	6	作品 授業の取り組み

2	仮名	7 「C 仮名の書」	蓬莱切 高野切第三種	・平安時代の古筆を臨書する意義について理解する。 ・古筆を鑑賞し、その美について理解する。 ・古筆の用筆、運筆、字形の取り方などについて学び、表現の特徴を手掛かりとして臨書する。	7	作品 授業の取り組み
3	生活に広げる	2 「A 漢字仮名交じりの書」	手紙文	・はがきやカードなど、身近な場面で気持ちを伝えるために書くものについて理解し、自分たちの創意を生かして書く。 ・身近な生活の中で生かされている書を探し、自分たちの生活でどのように生かすことができるかについて考える。	2	作品 授業の取り組み

計 7 0 時間（5 0 分授業）

※ 領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	A 漢字仮名交じりの書 17 時間	B 漢字の書 39 時間	C 仮名の書 14 時間
-----------------	----------------------	-----------------	-----------------

※ 増単している場合は、増単した割合に応じた授業時数を確保すること。

7 課題・提出物等

- ・単元ごとの作品
- ・ワークシート

8 担当者からの一言

生涯にわたって、書の文化を理解し愛好する精神を養いたい。授業では一心に紙に向かい、気持ちを託して書くことを楽しんでほしい。

担当者（ 吉浜 美香子 ）